

## 木曾駒ヶ岳山行報告

【山行日】2020年 8月 22(土)～23(日)

【集 合】岩舟町役場P AM 4:00

【費 用】マイカー2台 : 19,900円

【メンバー】CL:鈴木、 SL大西、  
安西、石澤、清水、島田、関、鶴見、福島  
藤原、松館、吉田、渡辺

【コースタイム】22日:岩舟町役場P4:00＝  
菅ノ台P7:00/7:20＝しらび平 8:10+++千畳敷  
8:07/8:30～乗越浄土 9:20/9:30～濃ヶ池  
10:40/10:50～2779mの肩 11:50/12:00～  
木曾駒ヶ岳 12:50/13:15～駒ヶ岳頂上山荘 13:35



22日 晴れ一時雨 千畳敷から乗越浄土に登り、農ヶ池から馬ノ背を登って木曾鎌が岳へ

人気の木曾駒ヶ岳は2年連続雨で中止になり、今年は中止に出来ないように宿泊山行を計画した。ところが、今年も1週間前から天気予報が土日とも雨マークで、毎日天気予報とにらめっこの日々を送る。



前日の予報では午前中は晴れ間があるが、昼ころから小雨になり3時には4mmの雨の予報に変わった。皆さんへ出発時間を1時間早くすると連絡し、岩舟支所をAM4:00に出発する。前日のヤマレコでは菅ノ台から大混雑で、チケット売り場は長蛇の列が出来、しらび平のロープウェイもかなり待たされたと書いてある。土曜日で混雑を心配したが、菅ノ台の駐車場は車が少なく、すんなり止められた。チケット売り場も並ぶことなく購入出来、7:20の増発便に乗り順調に

乗り継いで予定より早く千畳敷に着くことが出来た。千畳敷駅から外に出ると千畳敷カールの上に宝剣岳の岩峰群が連なり「ウワ～素敵、これを見られただけで来た甲斐がある」と大興奮。宝剣岳をバックに記念写真をパチリ。ストレッチを行い駒ヶ岳神社に参拝して遊歩道を歩いて行くと、自然保護レンジャーの方々がカードを配っていた。宝剣岳やコマクサ、雷鳥等の写真付いたカードを貰い皆大喜び。八丁坂分岐からは急な岩畳の登山道になり、ゆっくりペースを落とし登って行く。息を切らせながら高度を稼ぎ、急な岩壁を階段で登ると間もなく平坦な場所に出る。乗越浄土と言われる平坦な場所で、宝剣山荘や天狗荘等の山小屋が建っている。



景色も良く、宝剣岳や中岳を見ながら休憩し、桃や菓子のおやつをいただく。

この先の分岐を右に進み、農ヶ池に向かって下って行く。砂礫の中にハイマツが茂り、緑と白のコントラストがとても美しい。トウヤクリンドウやアキノキリンソウ、ヨツバシオガマ等の花が見られ、気持ちよく歩いて行くと駒飼ノ池に出る。水はほとんど無かったが、平坦な場所で登山者が休憩していた。この先は五葉松やナナカマドの灌木帯をトラバースする道で、岩や段差があり歩きにくい。木のハシゴも何ヶ所か有り、苦労しながら歩くと農ヶ池に着く。伝説が残る神秘的な池で、湖面に映る逆さ宝剣が美しいとあるが、残念ながら見ることが出来なかった。休憩を取りリンゴやチーズをいただき、お花畑や岩壁の景色を楽しむ。



ここから少し登ると雨がパラつき、空を見上げると

と青空が見えるので大した降りにはならないと思っただが、歩いているうちに結構降ってきた。急いでレインウエアーを着て歩き、八合目の尾根上に出る。尾根の北側は晴れているが、南側に黒い雲があり雨を降らせている。ハイマツの間を歩き、先頭は雨のしずくが大変だったようだ。2779mピーク手前で雨が止み休憩してレインウエアーを脱ぎ、各自行動食を食べ腹ごしらえをする。



ここからは馬ノ背の尾根歩きとなり、空も晴れて前方に駒ヶ岳山頂が見えてくる。途中の岩場に雷鳥が2羽見られ、反対側の岩場にもヒナが4羽見られた。皆さん喜んでカメラに収め、頂上山荘への道を左に分け最後の急登を頑張ると木曾駒ヶ岳山頂に着く。頂上には駒ヶ岳神社の木曾社殿と伊那社殿が立ち並び、360度の大大パノラマが得られる。眺望を楽しみながらランチタイムとし、お湯を沸かして各自持参したものをいただく。ゆっくり休憩していたら空模様が怪しくなり、急いで支度して下山する。



雷鳴が聞こえるが、頂上山荘は目の前に見えているので、転ばぬ様慎重に下る。頂上山荘に着いたら受付し、2階の3部屋割り当てられた。男性は奥の部屋にし、女性は6人と3人に分かれて部屋に落ち着く。部屋で荷物を整理し、着替えが済んだら下の食堂に行く。3時から反省会の予定だったが、男性達は待ちきれず2時30分から始まった。すると雷鳴が轟き、ものすごい雨とヒョウが降り、小屋の発電機も落雷を避けて電源を落した。薄暗い中での宴会になったが、皆さんご機嫌でビールやお酒をいただく。女性達も降りて来て賑やかになると雷雨もおさまり、電気も点いて会話が弾む。夕食の準備で一旦お開きになり、5時から夕食になる。夕食が済んだら部屋に戻り、明日の準備をして早めに床につく。

23日:駒ヶ岳頂上山荘 6:30~中岳 6:50/7:00~A班:宝剣岳 7:20/7:30~三ノ沢分岐:7:55/8:05~千畳敷 8:30/9:00 B班:中岳 7:10~乗越浄土 7:40~剣ヶ池 8:20~千畳敷 8:40/9:00+++しらび平 9:10/9:20=菅ノ台 9:55/10:05=こまくさの湯 10:15/11:40=岩舟支所 P15:40

23日 晴れ 駒ヶ岳頂上山荘から中岳に登り、山頂から2班に分かれA班は宝剣岳に登って極楽平経由で千畳敷へ。B班は乗越浄土から千畳敷カールのお花畑を楽しみ千畳敷へ。

5時30分から朝食なので、山頂からのご来光は止めて部屋からご来光を仰ぐことにした。天気予報は外れて今日も朝から晴天に恵まれ、部屋からご来光と南アルプスの山々が見渡せた。



予定より早く朝食が食べられ、6時30分出発に変更する。支度が出来たら小屋の前に集合し、駒ヶ岳山頂を見ながらストレッチを行う。ストレッチが済んだら出発し、小屋の南側の中岳へ登山始める。ゆっくり登っても20分で山頂に着き、ここから木曾駒ヶ岳や宝剣岳、御嶽山、南アルプスの山々を眺められる。南アルプスの上に富士山が頭を出し、宝剣岳の向こうには檜尾岳と空木岳が望める。

ここから健脚組のA班とのんびり歩きのB班に分かれ、A班は宝剣岳に登って極楽平に下り千畳敷へ向かう。B班は乗越浄土から八丁坂を下り、千畳敷カールの剣ヶ池を経由して千畳敷へ向かう。

A班は先行して出発し、宝剣山荘の先から宝剣岳へ向かって登って行く。ここからの登山道はクサリ場が連続し、急峻な岩場を登る経験者向けのコースだ。距離は短いがクサリ場の難易度は剣岳や穂高岳よりも難しいコースだ。途中、ガイド登山の方達が下って来たが、ガイドの方がロープで3人を確保して降りるので待つのに時間が掛かる。山頂直下でもう一組ガイド登山の方達が降りて来て、すれ違えないので待つが時間が掛かる。ようやくすれ違い山頂に到着するが、先客が3名いる



ので狭い山頂でのすれ違いも慎重に行動する。山頂には2つの祠があり、奥の祠まで行き写真を撮る。写真を撮ったら安全な場所に移動し、マスカットを食べていると登山者が登って来たので場所を空けて下山する。南側へ下るルートもクサリ場が連続し、緊張の連続である。それでも皆さん岩場が大好きな方達なので、スイスイと下り安全な三ノ沢岳分岐に着く。今降りてきた岩峰を振り返り、登って来た宝剣岳を見ながら大休止する。

ここからの眺めは素晴らしく、今登ってきた宝剣岳と中岳、昨日登った木曾駒ヶ岳の3座が並んで見ることが出来る。御嶽山や乗鞍岳も見え、眺望を楽しみながらゼリーやまんじゅうをいただいた。



平坦な尾根道を進み、極楽平の分岐を左に下り千畳敷駅に着く。B班は中岳山頂でゆっくり眺望を楽しみ、乗越浄土から八丁坂を下って分岐を左に進み、剣ヶ池への遊歩道を歩く。剣ヶ池は平坦で広く、ベンチに座って眺める宝剣岳が素晴らしい。アキノキリンソウやイワツメクサ、サクライウズ等の花に癒され、のんびり歩くと千畳敷駅に着いた。A班と無事合流し、9時のロープウェイに乗ってしらび平へ着く。しらび平からバスに30分揺られ、菅ノ台の駐

車場に着く。靴を履き替え荷物を積んだら車に乗り、こまくさの湯へ向かう。早太郎温泉「こまくさの湯」は、様々な効能を持つ霊犬早太郎にちなんだ霊験あらたかな湯だ。館内には大浴場やハーブ薬湯、露天風呂、サウナなどがあり売店やレストランもあって登山者には便利な温泉である。温泉が済んだらレストランで昼食をいただく。各自好きなものをオーダーし、とても美味しくいただいた。女性達は売店で野菜やお土産を買い、とても満足そう。心配した天気も2日間とも晴れて山頂からの眺望を楽しめ、皆さん大満足の山行になったようだ。

